

令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	186	66	63	4.4	10.0
	大阪市	—	61	55	5.1	12.3
5月27日	全国	—	64.6	57.2	4.4	11.2

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	207	69.1	50.0	55.4	46.0	59.1	7.9	5.8	10.6	4.2	3.1
	大阪市	—	65.6	47.5	46.9	42.6	52.9	7.3	5.8	10.7	4.1	3.1
	9月2日 大阪府	—	65.8	48.2	48.1	43.0	53.2	7.6	5.8	11.2	4.5	3.4
2 年	学校	207	65.2	59.9	72.7	58.0	69.0	9.4	4.1	5.0	4.0	2.9
	大阪市	—	57.5	51.2	59.0	53.8	57.8	12.1	6.4	9.4	5.5	5.5
	1月13日 大阪府	—	58.8	52.2	60.1	53.1	58.5	11.9	6.4	9.4	6.3	5.6
1 年	学校	224	69.1	58.4	67.1	68.9	71.6	7.7	3.3	4.3	3.1	3.9
	大阪市	—	60.8	56.2	57.2	60.7	62.6	9.7	3.0	6.0	3.8	4.6
	1月13日 大阪府	—	62.2		58.5		63.5	9.7		6.2		4.7

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	176	123.8	128.2	166.1	111.0
10月22日	大阪市	—	100.9	108.0	140.3	93.0

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 1500m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	177	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	28.86	23.92	42.29	52.99	68.24		7.98	200.41	20.07	39.70
	大阪市	28.90	26.27	42.12	51.88	78.32		8.08	195.40	20.03	40.71
	全 国	28.80	25.99	43.67	51.19	79.88		8.01	196.36	20.31	41.18
2 年 女 子	学校	23.33	19.20	43.10	48.05	53.55		8.70	168.88	13.43	48.34
	大阪市	23.42	22.44	44.71	46.94	53.61		9.01	167.76	12.62	48.06
	全 国	23.43	22.32	46.20	46.25	54.24		8.88	168.15	12.72	48.56

令和3年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から 全国学力・学習状況調査

【成果と課題】

<国語>

本年度の学力・学習状況調査において、国語の平均正答率は 66%と、大阪府と比較して+4 ポイント、全国と比較して+1.8 ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に得点率を全国平均と比較し、詳細を見ていくと、「書く」について、0.8 ポイント、「読む」について 4.9 ポイント上回っているが「話す・聞く」について 2.0 ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について 0.6 ポイント下回る結果となった。

また、評価の観点別では「関心・意欲・態度」について、全国平均と比較すると 2.0 ポイント下回る結果となった。さらに、自分の考えを書く問題や理由を答える記述式の問題については、無回答率が全国平均に比べて約 2.0 ポイント高くなっている問題も見られた。

全国平均を上回る観点があり、合計でも全国平均を上回ることができたことは成果である。ワークシートの工夫や言語活動による主体的な学びを展開してきたことが結果につながったと考えられる。

一方、課題として、「話す・聞く」の観点と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の観点が挙げられる。習熟度別授業やティームティーチングによる授業などを工夫し、きめ細かな学習支援をしていくことが必要である。また、記述式問題においても、解答の仕方や条件を踏まえて書くというトレーニングをすることが求められている。

<数学>

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は 63%で、大阪市平均を 8 ポイント、全国平均を 5.8 ポイント上回った。特に「数と式」の領域では、全国平均より 7.9 ポイント上回っており（本校：72.8%）、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考える。また記述式問題においても、全国平均を 7 ポイント上回った（本校：42%）。

生徒質問紙では、「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」の 2 項目において、「当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国平均をそれぞれ 8.7 ポイント、8.2 ポイント上回った。

本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るものの、数量関係を読み取り数学的な表現を用いて自分の考えを説明する力の向上が課題である。

【今後に向けて】

<国語>

生徒質問紙の「国語の授業で、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」の肯定的な割合が全国平均に比べて 6.7 ポイント低いという課題が明らかになった。授業において、導入部分の工夫やグループ活動を少人数にするなど話しやすい雰囲気を作ることも必要であると考えている。

また、複数教員によるサポート体制、個に応じた指導など、より一層、様々な生徒のニーズに合った授業を構築する。さらに、学習意欲の喚起のために、グループ学習や I C T を利用した学習など、自ら課題を発見し答えを見出す学習、仲間と情報を共有する学習、意見を発表する学習を通して、「言語力」や「論理的思考」を育成する。生徒の実態に応じて「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、試行錯誤しながらも実生活に結びつく授業を研究・実践し、その取組を推進していく。

<数学>

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを説明する力をつけていくことは非常に大切なことである。

今後も習熟度別少人数授業を通して、授業内容の定着をより一層図りたい。また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていきたい。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れたい。

アンケート結果から「数学の授業の内容はよく分かる」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の 2 項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が 82.8%（府平均+8.6）、84.4%（府平均+2.4）であった。

今後は、より一層生徒が数学を理解しようとする学習意欲の向上や姿勢を維持しつつ、数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていきたい。

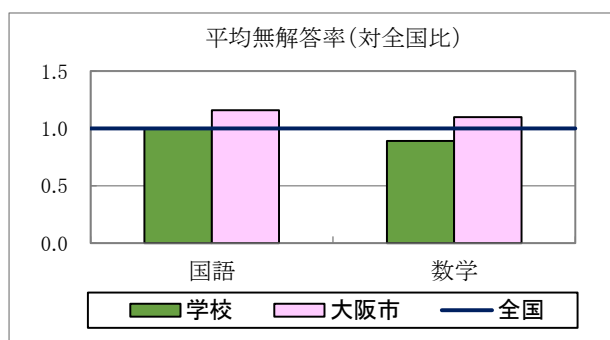
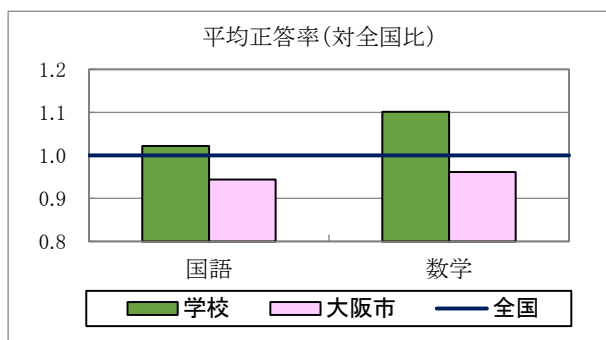
令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

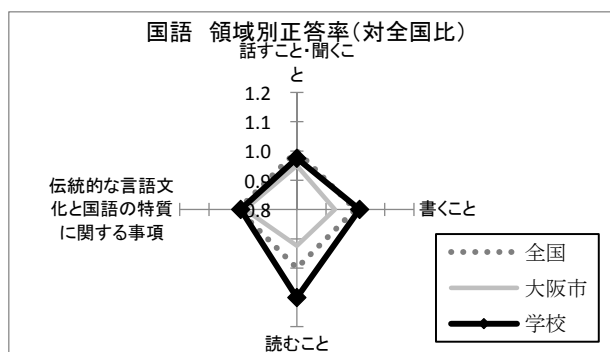
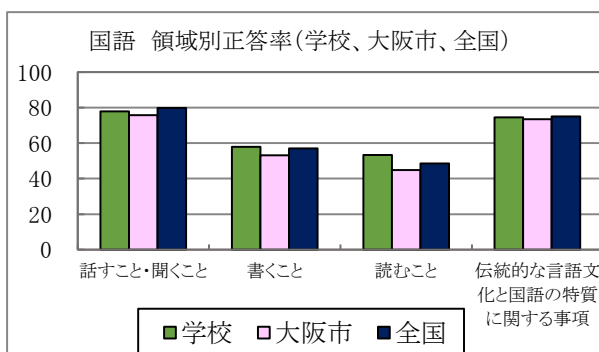
	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	66	63
大阪市	61	55
全国	64.6	57.2

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	4.4	10.0
大阪市	5.1	12.3
全国	4.4	11.2



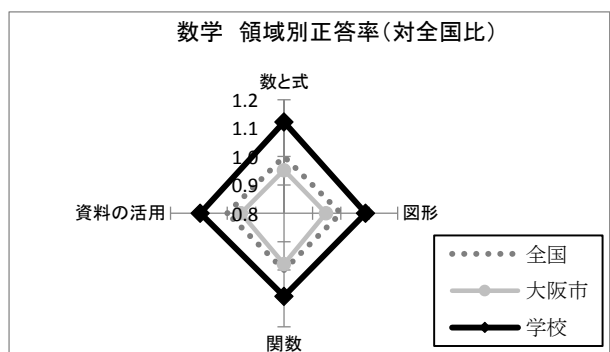
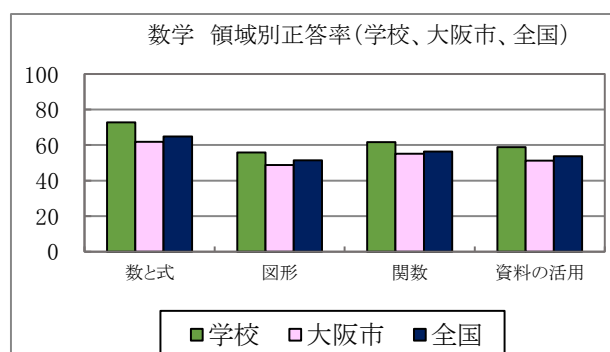
【 国 語 】

学習指導要領の 領域等	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
話すこと・聞くこと	3	77.8	75.8	79.8
書くこと	3	57.9	53.1	57.1
読むこと	4	53.4	44.8	48.5
伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	4	74.5	73.4	75.1



【 数 学 】

学習指導要領の 領域等	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
数と式	5	72.8	61.8	64.9
図形	4	55.9	48.7	51.4
関数	3	61.6	55.2	56.4
資料の活用	4	58.9	51.2	53.8



令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

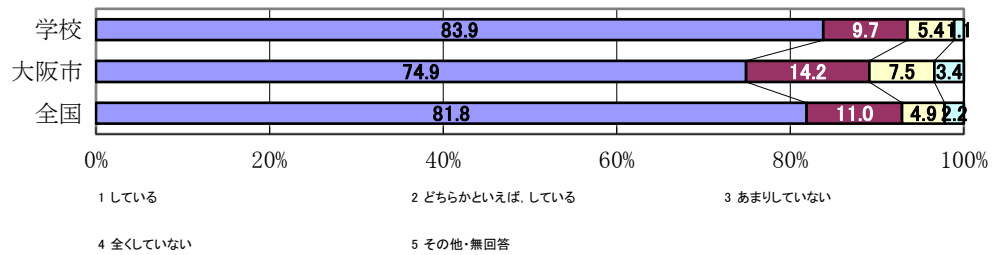
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

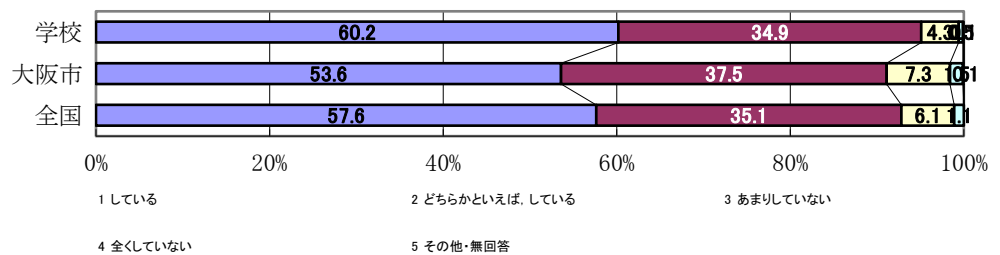
1

朝食を毎日食べていますか



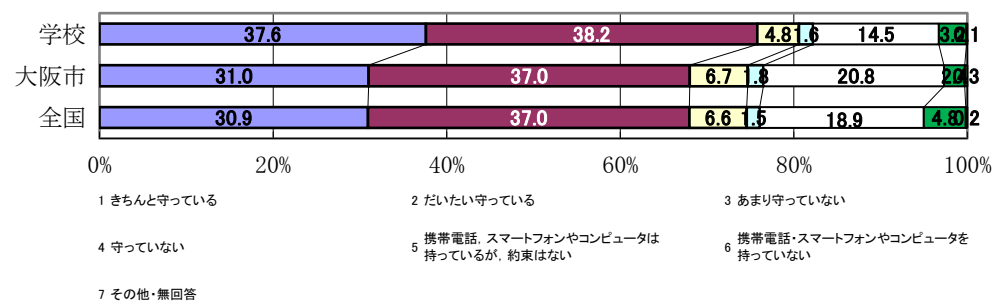
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



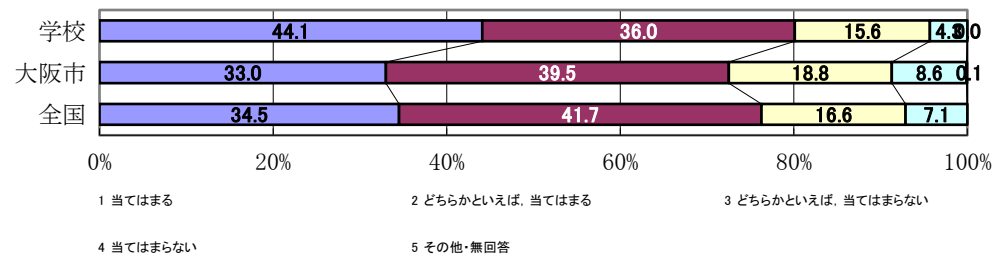
4

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



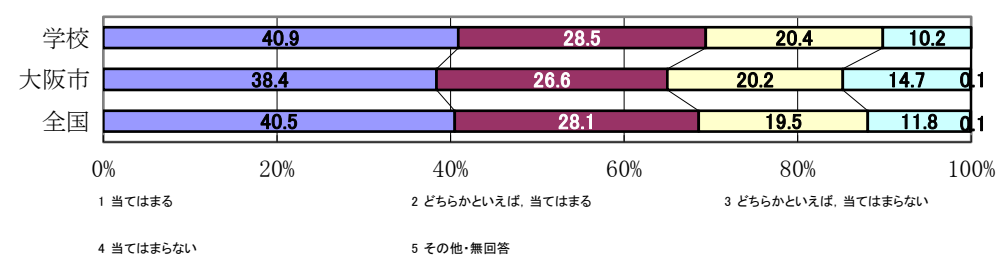
6

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

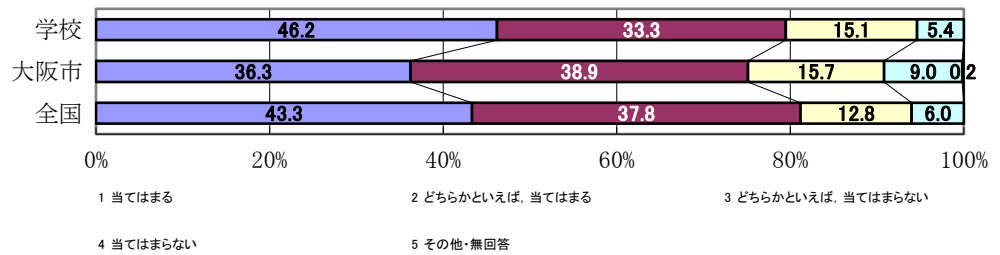
生徒質問紙より

質問番号

質問事項

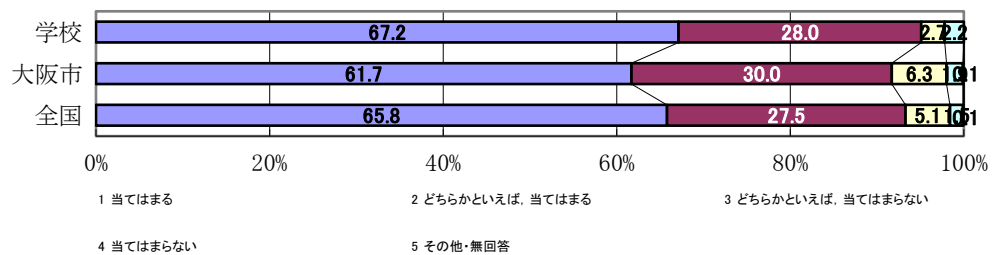
13

学校に行くのは楽しいと思
いますか



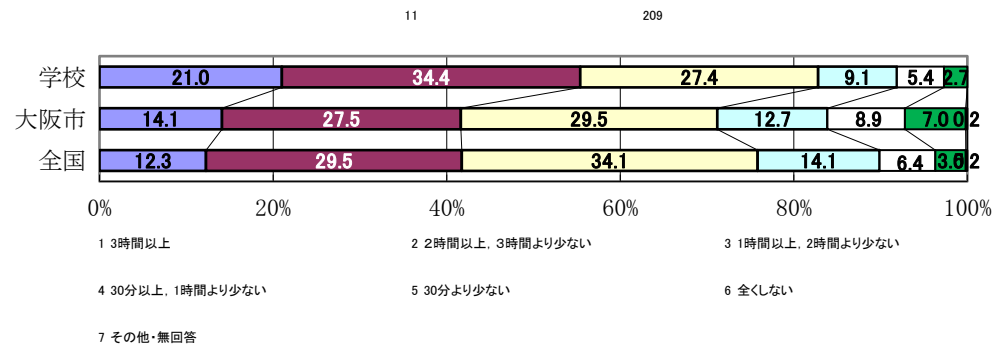
16

友達と協力するのは楽しい
ですか



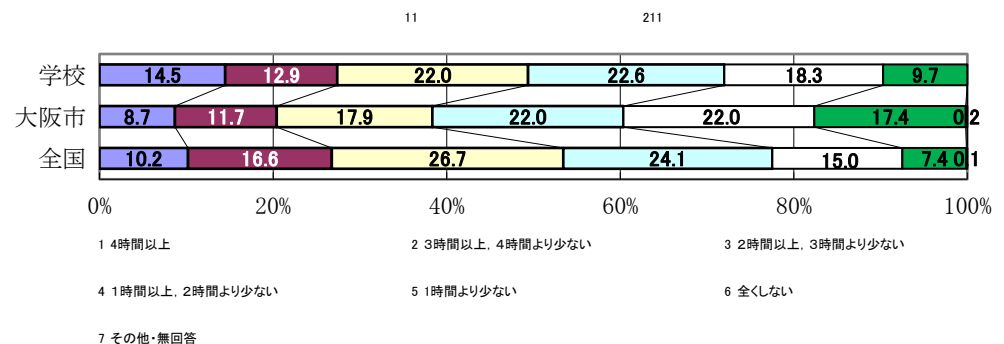
18

学校の授業時間以外に、普段(月
曜日から金曜日)、1日当たりどれ
くらいの時間、勉強をしますか(学
習塾で勉強している時間や家庭
教師に教わっている時間、イン
ターネットを活用して学ぶ時間も
含みます。)



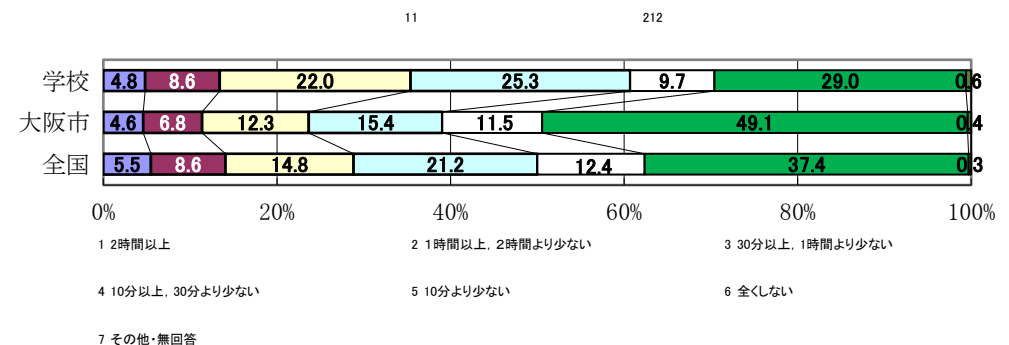
19

土曜日や日曜日など学校が休み
の日に、1日あたりどれくらいの時
間、勉強をしますか(学習塾で勉
強している時間や家庭教師に教
わっている時間、インターネットを
活用して学ぶ時間も含みます。)



21

学校の授業時間以外に、
普段(月曜日から金曜日)、
1日当たりどれくらいの時
間、読書をしますか(教科
書や参考書、漫画や雑誌
は除く)



令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

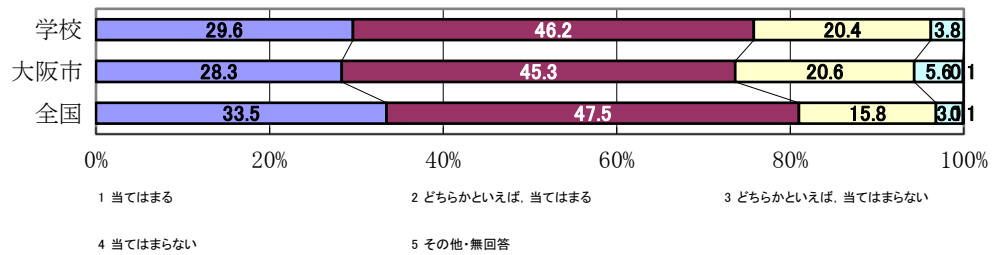


質問番号

質問事項

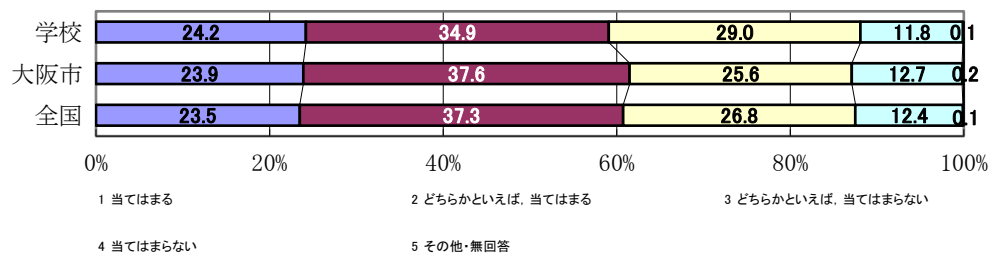
33

1, 2年生のときに受けた授業では, 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいましたか



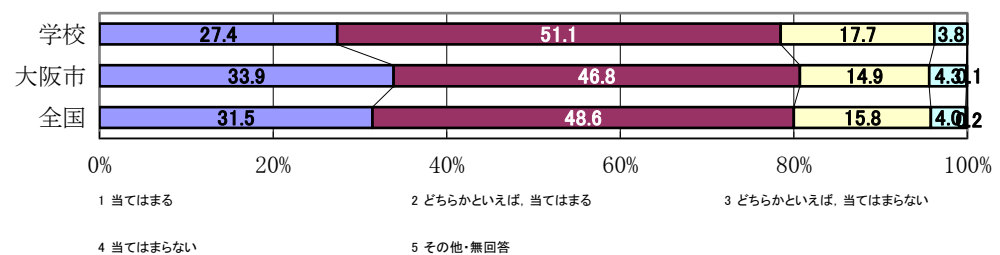
43

国語の勉強は好きですか



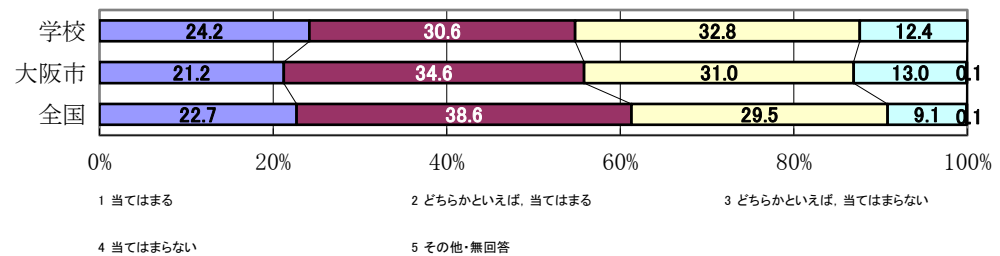
45

国語の授業の内容はよくわかりますか



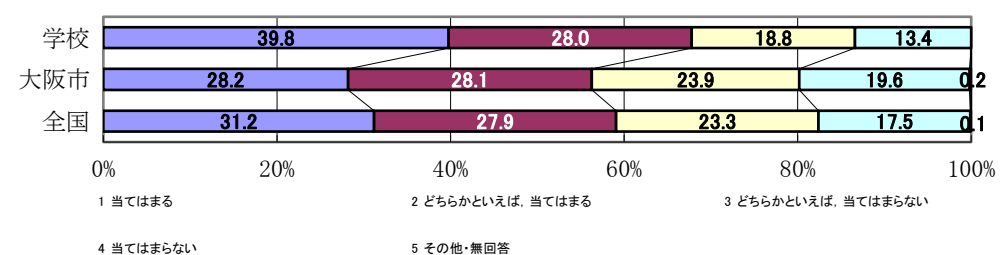
48

国語の授業では, 目的に応じて, 自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか



52

数学の勉強は好きですか



令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

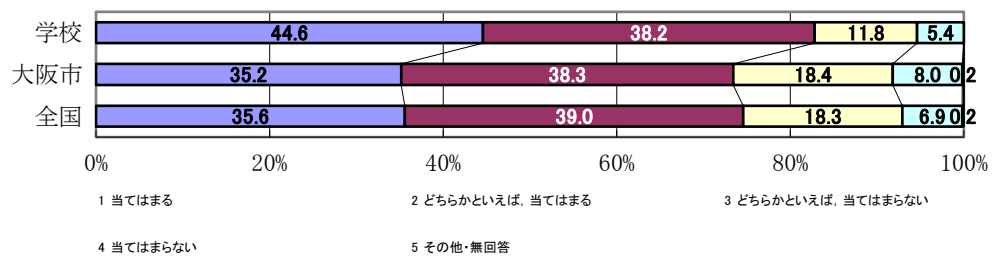
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

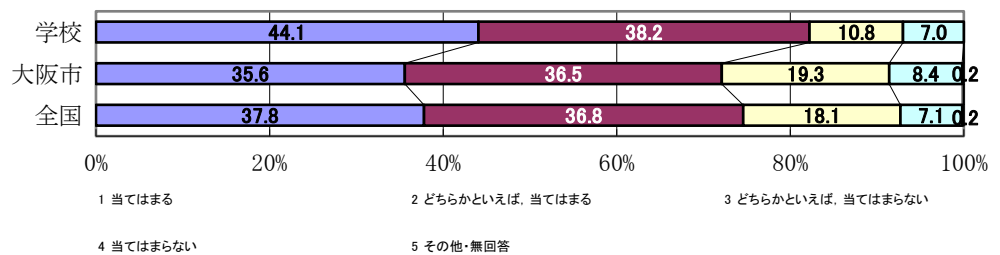
54

数学の授業の内容はよく分かりますか



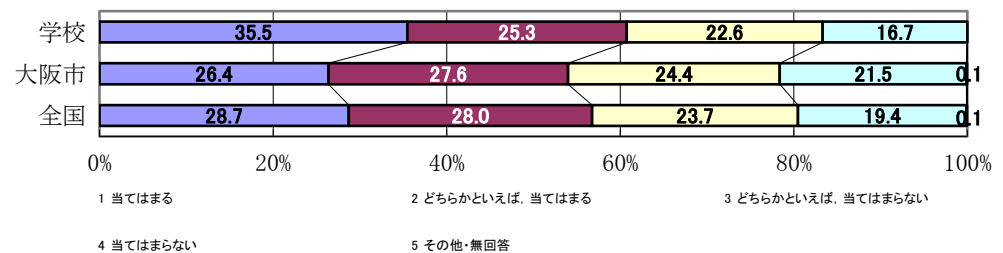
55

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



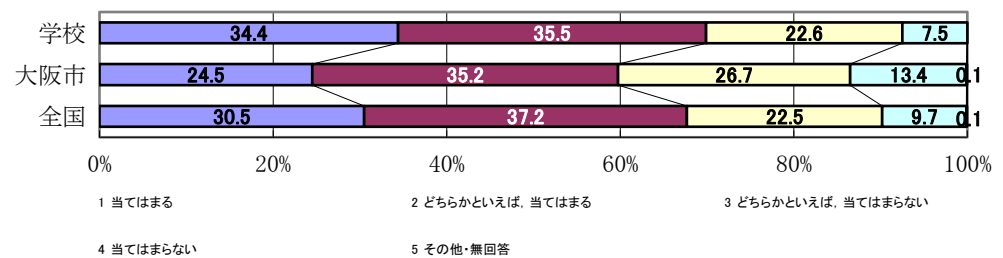
61

英語の勉強は好きですか



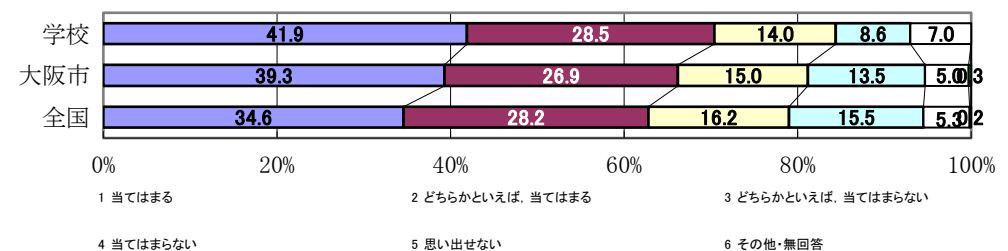
62

1, 2年生のときに受けた授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか



64

新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか



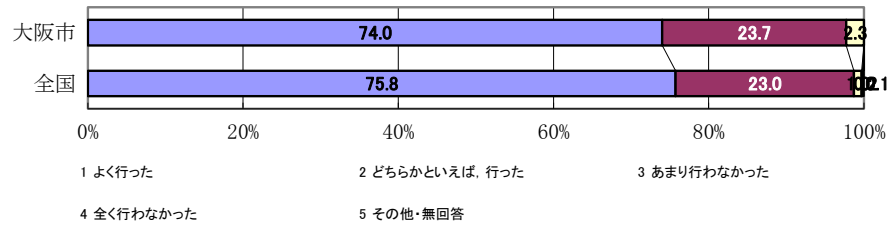
令和3年度 大阪市立東中学校中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

質問番号
質問事項

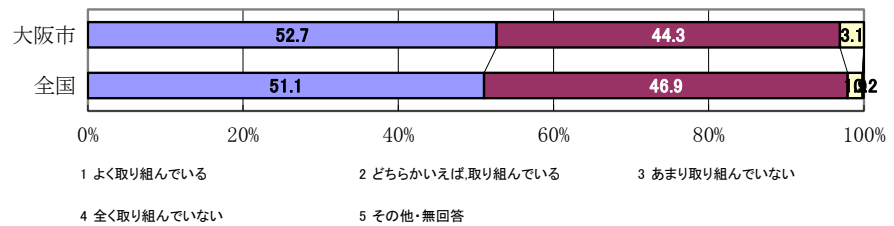
10
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど)を維持しましたか

学校「よく行った」を選択



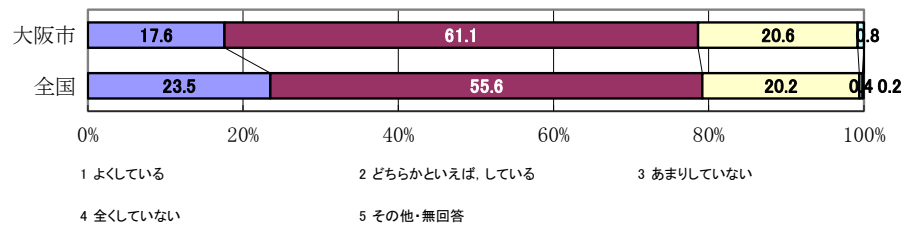
17
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

学校「よく取り組んでいる」を選択



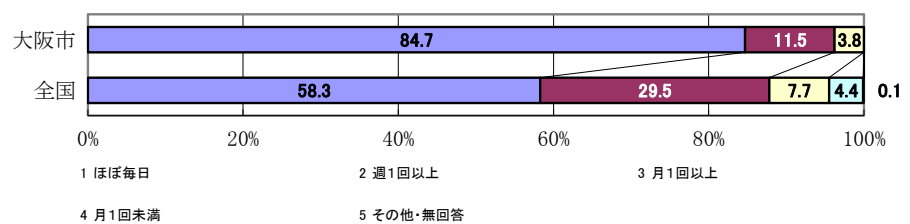
28
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか

学校「よくしている」を選択



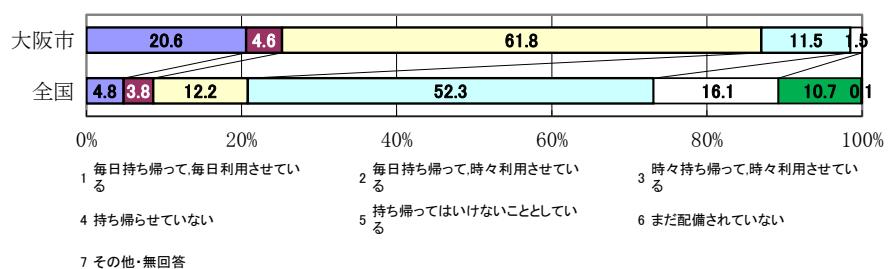
66
前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行いましたか

学校「ほぼ毎日」を選択



75
あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校「時々持ち帰って、時々利用させている」を選択



令和3年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から 中学生チャレンジテスト（3年生）

【成果と課題】

<国語>

本年度のチャレンジテストにおいて、国語の平均得点率は、大阪府の 65.8%を 3.3 ポイント上回る 69.1%であった。

分類別に得点率を大阪府平均と比較して詳細を見ていくと、次の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「知識及び技能」の区分について、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では 0.9 ポイント、「情報の扱い方に関する事項」では 0.1 ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」では 0.5 ポイント上回っている。また、「思考力、判断力、表現力等」の区分について、「話すこと・聞くこと」では 0.7 ポイント、「書くこと」では 0.1 ポイント、「読むこと」では 1.3 ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分では 1.5 ポイント、「思考・判断・表現」の区分では 2.3 ポイント上回っている。

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分では 1.5 ポイント、「短答式」の区分では 1.8 ポイント上回っているが、「記述式」の区分では 0.1 ポイント下回っている。

日頃の授業からノートやワークシートを用いた授業をしていることに加え、多くの自主作成プリントを使って学習したことが大阪府平均を上回った要因だと考えられる。「読むこと」については、意味の分からない語句については辞書を使って意味を調べることを徹底させ、前後の文脈から意味を正確にとらえる学習を繰り返し行ってきた。文章全体の構成を理解することも指導した成果だと考えられる。さらに、グループワークの際には「まとめ」を伝える発表の仕方にも注意して、順序立てて行うように指導してきた。漢字・語句学習についても 1 年時から復習プリントや漢字ノートを使用し、積み重ね学習を行ってきた効果もあると考えられる。

課題として、「書くこと」に苦手意識を持つ生徒が見られる。これまで自分の考えを条件にあてはまるように注意して書く取り組みを単元ごとに行ってきた。さらに定期テストや実力テストでも記述式の問題を必ず出題してきたが、大阪府平均を 0.1 ポイント下回っている。文章を根気強く読む習慣はついてきているので、問題の意図を正確に捉え、書くことが課題である。

<社会>

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は大阪府の平均 48.2 点よりも 1.8 点高い、50.0 点であった。得点の人数分布をみると、大阪府全体のピークが 35～39 点に対し東中学校の分布の割合のピークは 50～54 点あった。また、70～84 点の分布が府平均よりも多くなっており、得点力が高いことがわかる。しかし、その一方で 20～24 点の割合が府平均よりも多い数値となっていることが課題である。

領域別の平均正答率では、地理的分野・歴史的分野ともに大阪府の平均を上回っているが、歴

史的分野の平均が府平均と同程度にとどまっている。観点別の正答率では、2つの観点ともに大阪府の平均を上回っている。また問題形式別の平均点でもすべての形式で大阪府平均を上回っている。

<数学>

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は55.4点で7.3点上回った。

「数と式」の領域では、正答率が71.0%（府平均+7.1）となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考える。その他の領域については「図形」の領域で44.2%（府平均+5.0）、関数の領域で49.3%（府平均+6.0）、データの活用42.3%（府平均+6.3）と全領域において上回った結果となった。

<理科>

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均43.0点よりも3.0点高い、46.0点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では40～44点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では45～49点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。また、70～74点も人数分布が多く、若干2極化の傾向が見られる。

領域別に見た平均点では、4領域とも大阪府の平均点を上回っており、領域の違いによる平均点に偏りは見られなかった。観点別に見た平均点でも、全ての観点で大阪府の平均点を上回っていた。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、選択式よりも短答式や記述式の得点率が高くなった。一方で、問題別に詳しく見ていくと、天気図にある前線の名前を選ぶ問題や花を咲かせる植物を選ぶ問題の正答率が大阪府平均よりもやや低かった。

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて、英語の平均点は、大阪府が53.2点であるのに対し、本校は59.1点であり、大阪府平均を5.9点上回る結果となった。

分類・区分別に得点率（平均点/配点）を見ると、以下の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「聞くこと」の区分で6.9ポイント、「読むこと」の区分で4.3ポイント、「書くこと」の区分では7.0ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分で3.8ポイント、「思考・判断・表現」で6.3ポイント上回っている。

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分で5.3ポイント、「短答式」の区分で5.0ポイント、「記述式」の区分では9.4ポイント上回っている。

以上のように、すべての区分において大阪府を上回った。

「聞くこと」の区分で大阪府平均を上回ったのは、日頃の授業でC-NETの流暢な英語を聞くことや、單元ごとのリスニングテストを行っていることが要因であると考えられる。また、定期テストや実力テストにおいても、毎回約10分に及ぶリスニング問題でその力を試す機会を設けている。

「書くこと」の区分においては、毎回の授業の中で並べ替えや和文英訳、自由英作文を練習問題や單元テストに組み込み、英文を書くことに慣れさせたことが、大阪府平均を大幅に上回った要因であると考えられる。英語が苦手だと感じている生徒にも前向きに書こうとする姿勢がみら

れる。

その一方で、「読むこと」の区分での得点率は、ほかの区分に比べて低く、大阪府平均を上回っているものの、大きく変わらない数値となった。これは、教科書本文を読んではいるが、授業中に長文の読解に割いている時間が少ないことが一因であると考えられる。また、「知識・技能」の区分でも低い値がみられているが、書き間違いや単語や熟語、格変化等の基本となる知識が一定以上定着していないことがうかがえる。

【今後に向けて】

<国語>

今後も、「自分の考えや意見をまとめ、それを人に伝える」ということを重点に、学習活動に取り組んでいく。そして、「主体的・協働的な学習」「課題解決的な学習」「グループワーク」等、様々な学習活動から生徒に迫り、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につなげられるよう努める。

そして、ICT 機器や学習者端末を利用した授業も工夫し、生徒の興味・関心を引き出していくようにする。また、漢字の「読み書き」といった「基礎基本」を充実させるために、反復学習や復習プリントなどを徹底して行うことで、語彙知識の定着を図る。

さらに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、「振り返りシート」や「単元まとめ」プリントなどを作成し、生徒それぞれが課題を明確に把握し、克服できる道筋を示せるようにしていきたい。

<社会>

各領域、観点、問題形式とも、大阪府の平均を上回ることができた。しかし、歴史的分野においては大きくは上回っておらず、今後の学習で復習していく必要である。また、今回のテストでは日頃から社会事象に興味・関心が持てるよう、授業の導入に時事問題についての話題を取り入れて継続的に指導したこと、さらにテスト前の振り返りプリントなどで学習した成果もあると思われる。今後も今回のテスト結果以上の成果をめざすとともに、得点割合 20～24 点の分布を減少させるべく、より一層、理解度を深める授業をめざしていきたい。

<数学>

チャレンジテストの結果から、習熟度別少人数授業により生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容が身につけている。しかし、記述式の問題については、府平均を 7.0% 上回ったものの、本校の正答率は 30.0% と低い結果であった。そのため、今後は数学を用いて事象を理解し、記述し、説明する力の育成に努めたい。また、言語活動を取り入れた授業展開の中で、思考力・判断力・表現力の育成に努めたい。

<理科>

中学生チャレンジテストについて、学校平均点が大阪市の平均点を上回ることが明らかになった。本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着が図れていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、1年生から単元ごとの白プリントや、授業での演習を実施してきた成果と考えられる。

この学年は、コロナウイルス感染拡大防止対策下において、実験・観察の機会をもつことが難しかった。「知識・技能」の観点の正答率が大阪市の平均点を1.0点上回っているものの、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、対話・発表したりする機会が少なかったことは課題であると考えられる。

今後、引き続き基礎・基本の定着を図るための学習に取り組みつつ、実験の条件等を答える応用問題への対策をしていく必要があると考えられる。生徒の興味関心が高まるような動機付けと、日常生活との関連付け、実験の結果を予想したり検証したりできるような工夫を行う。

また、正答率の人数分布において45%未満に分布する生徒は、理科に対して苦手意識を持っていることが予想される。生徒が興味関心をもって学習に取り組めるような授業の導入を工夫すると共に、より基礎・基本が定着するよう、教材も工夫し、実力テスト等を振り返る機会を設け、単元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく。生徒が自ら、成果を実感し課題を見つけることができるよう、授業を工夫していくことが重要であると考えられる。

<英語>

「聞くこと」の区分では、引き続き、ネイティブスピーカーの流暢な英語を聞くことやリスニングテストで、リスニング力を鍛えていく。

「読むこと」の区分では、教科書本文の読解問題に積極的に取り組ませ、さらにそれ以外の長文等も授業で用いて読解力を養う。また、読むだけではなくそのことをまとめたり発表したりする時間を確保し、内容理解を深めるようにする。

「書くこと」の区分では、今までと同じように英作文に取り組ませる。また、正確に書く力を養うと共に長い文章や自由英作にも対応できるようにする。

また、すべての領域、区分において、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し、学習支援を行う。

令和3年度 大阪市立東中学校のあゆみ

—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から 中学生チャレンジテスト（2年生）

【成果と課題】

<国語>

国語の合計点を見ると、65.2点と大阪府平均を6.4点上回っている。分類別に得点率を大阪府平均と比較して詳細を見ていくと、次の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の区分で0.8ポイント、「情報の扱い方に関する事項」の区分で0.7ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」の区分で1.8ポイント、「話すこと・聞くこと」の区分で0.8ポイント、「書くこと」では1.5ポイント、「読むこと」では2.3ポイントと全項目において上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・理解」の区分で2.6ポイント、「思考・判断・表現」の区分で4.7ポイントと全項目において上回っている。

「問題形式」の分類では「選択式」の区分では2.7ポイント、「短答式」の区分では3.2ポイント、「記述式」の区分では0.5ポイントと全項目において上回っている。

以上のように、すべての分類、区分において大阪府平均を上回るという結果になった。

今回のチャレンジテストでは、全ての項目で大阪府の平均点を上回ることができている。しかし、各分類の得点を配点に対する得点率で計算した場合、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の区分において、その得点率は大阪府平均から3%弱上回るにとどまっている。その他の分野が7%前後上回っていることを考えると、この分野に課題があると考えられよう。

設問別の集計でも、正答率が大阪府平均を下回っているのは、ほぼ漢字の読み書きに関する設問と文節の関係についての設問に限られている。そのため、読解力を支える「知識・技能」の分野である、漢字や言葉の知識の定着、係り受け等の文節の関係の理解といった、基礎的な知識の復習と定着が今後の喫緊の課題としてあげられる。

<社会>

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均52.2点よりも7.7点高い、59.9点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均56.7点よりも9.1点高い、65.8点であり、歴史的分野が大阪府の平均46.7点よりも6.0点高い、52.7点であった。

今後の課題としては、歴史的分野の方が、大阪府平均との差が小さいため、歴史的分野もしくは「江戸時代の政治改革」の分野の学力の向上があげられる。

観点別に見た得点率でも、2観点とも大阪府の平均を上回った。思考・判断・表現の観点については大阪府との差が10点高く、授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させた成果が出ている。

問題形式別の得点率でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、記述の形式の得点が大阪府の平均32.5点よりも13.8点高い、46.3点であり、普段から授業用ノートに自分の意見を書か

せたり、発表させたりしている成果が出ている。

<数学>

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は 72.7 点で 12.6 点上回っていた。

「数と式」の領域では、平均点が 26.4 点（府平均+4.6）となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考える。その他の領域については「図形」の領域で 24.7 点（府平均+3.0）、「関数」の領域で 21.5 点（府平均+4.8）と全領域において上回った結果となった。

<理科>

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均 53.1 点よりも 4.9 点高い、58.0 点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では 65～69 点に人数分布のピークがあるのに対して、東中学校の人数分布では 75～79 点、65～69 点、50～54 点の 3 か所に多数が分布している。府平均に対する得点の割合が 12 割以上である人数が 44.6%であり、学校平均を引き上げている。また 0～9 点の層に当てはまる生徒はおらず、10～19 点の層でも 4.3%であることから基礎学力の定着が図れていると思われる。

領域別では、3 領域とも大阪府の平均点を上回っており、領域の違いによる平均点の偏りは見られなかった。観点別でも、3 観点ともに大阪府の平均点を上回り、特に観察・実験の技能の観点で大阪府の平均より 3.0%高かった。また、問題形式別でもすべての形式において大阪府の平均点を上回っており、短答式はもちろん、記述式でも得点率がやや高かった。

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が 58.5 点であったのに対し、本校は 69.0 点であり、大阪府平均より 10.5 ポイントと大きく上回る、という結果となった。

学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、2.5 ポイント上回ることとなった。C-NET との授業やリスニングテストの実施だけでなく、英検対策としてのリスニング問題の練習や、洋楽のリスニングを実施することで聞き取りの力が定着し、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、3.7 ポイント上回ることができた。すべての課において暗唱に取り組むこと、一定の長さの英文を読み込むことを授業に取り入れていることで、文章を読み取る力がしっかりとついてきているという結果に結びついた。

「書くこと」の領域においては、4.4 ポイントと特に大きく上回った。単元ごとの単語テストを毎回実施し、C-NET を含む複数教員で添削することが基本的な「書く力」の定着の一因であると考えられる。

また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において 5.7 ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において 4.8 ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

【今後に向けて】

<国語>

これまでの授業の中では、文章読解において、論理的に読むことを意識した授業を行ってきた。こうした取組には生徒の関心も高く、意見交換等のアクティブラーニングに積極的に取り組む姿

も多く見られる。その成果か、「読むこと」や「書くこと」について、ある一定の結果が出ていることは好ましく感じられる。

一方、課題となる語彙、文法の分野では、理解したことを反復して定着させるには練習量が不足しているだけでなく、自主的・主体的に取り組む生徒の少なさも感じられる。その解決に向け、習熟度別授業を中心に ICT 機器を利用しながら語彙、文法の理解をめざした授業を行ったところ、生徒の関心の高まりも感じられた。語彙、文法の力は、精緻な文章読解に欠かせない要素であるため、こうした機を逃さず、授業、家庭での反復、評価、という基本的なサイクルを繰り返しながら定着を図りたい。また授業においても習熟度別授業などをより活用しながら個に応じた指導を展開し、府平均に満たない生徒たちを伸ばしてやりたいと考える。

<社会>

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、歴史的分野の平均との差が小さいため、復習や繰り返しプリントなどを用い、学習の定着を図る。

また、今後の歴史的分野の授業においても、小テストなどを実施することで、知識の定着を図り、より生徒が興味・関心を持てるような授業づくりに努める。

<数学>

アンケート結果から「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある」「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の 2 項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が 90.7%、94.0%と府平均をそれぞれ 3.9 ポイント、9.8 ポイント上回った。

チャレンジテストの結果から、生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容は身につけている。しかし、記述式の問題については、大阪府平均を 0.9 ポイント上回っているものの、本校の平均点は 2.3 点と低い結果であった。そのため、数学を用いて理解し、説明する力の育成が必要である。言語活動を取り入れた授業展開で、思考力・判断力・表現力の育成に努めたい。

<理科>

本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることや、20 点未満の層の人数が少ないことから、基礎的な学習の定着がはかれていると思われる。基礎学力の定着に向けて授業中に行った、演習プリントや単元ごとの小テスト、授業初めの小テストなどの成果であると考えられる。

また自然現象を論理的に説明できるような課題に取り組み、グループで課題を討議し、発表する機会を多く持った。その結果、アンケートにおいて「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある」に肯定的に答える生徒の割合が 90.7%と高得点になったのではないかと考えられる。

コロナウイルス感染拡大防止対策下で、観察・実験を行う機会が減少したが、演習実験から実験結果を討議したり、実験結果を表現、発表したりする機会を十分に設けた。その結果が観察・実験の技能の得点率に反映されていると考えられる。

全体的には基礎学力は定着していると考えられるが、今後も単元ごとのテストを実施し、さらなる定着を目指す必要がある。特に、得点の人数分布において 50 点以下の層に分布する生徒 (21.1%) は、理科に苦手意識を持っていると考えられる。この層の生徒に興味関心をもって学習に取り組めるように、教材を工夫し、実験や演習、討議や発表の時間を増やし、班での教え合いの機会を多く持つことが必要である。

<英語>

大阪府平均を 10.5 ポイントと大きく超えるという結果であったが、さらに実力を伸ばすために今以上に集中して授業に臨み、基礎力をつけるために繰り返して学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストや本文練習用プリントなど授業中に実施できるものだけでなく、条件英作文など、入試も意識した英作文などに挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。英文作成が大きく負担になることのないよう、単語や熟語の定着から始め、少しずつ文章へと移行していくように指導の体制を整える。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や定期テストでのリスニングだけにとどまらず、授業中での洋楽のリスニングや C-NET とのやり取りを増やせるように取り組む。実際に聞くだけではなく英語を使って会話をすることで、集中して聞き取ろうという意識を高めていく。

今年度、全体として意欲的に授業に取り組む姿勢は見られたが、苦手意識を持っている生徒も一定数存在する。その生徒達も取りこぼすことのないよう、また、今後は自分たちで考えを深める授業につなげられるよう、少人数授業や TT 授業を活用し、生徒の学力向上に努めていく。

令和3年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から 中学生チャレンジテスト・チャレンジテスト plus（1 年生）

【成果と課題】

<国語>

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は 69.1%と、大阪府平均の 62.2%を 6.9 ポイント上回った。

学習指導領域別に得点率についても、すべての領域で大阪府平均を上回ることができた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、1.0 ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、0.4 ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、2.5 ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については 1.1 ポイント、「書くこと」については 1.4 ポイント、「読むこと」については、2.8 ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については 36.1%となり、大阪府平均の 32.6%を 3.5 ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では 45.1%となり、大阪府平均の 39.8%を 5.3 ポイント上回った。無解答率についても、大阪府平均を下回っており、粘り強く問題を解く姿勢も見られている。

ワークシートの工夫や言語活動による主体的な学びを展開してきたことが結果につながったと考えられる。また、漢字の書き取りの反復学習や小テストも継続して行ってきた成果である。

<社会>

社会科のテストの平均正答率については、大阪市の平均正答率と比較すると 2.2%上回っている。「カテゴリー正答率」の分類では、「基礎・活用」の分類では、「基礎」の区分で 1.2 ポイント、「活用」の区分で 5.9 ポイント上回っている。領域の分類では、「地理」の区分で 1.8%、「歴史」の区分で 2.5%上回っている。「観点」の分類では、「知識・技能」の区分で 2.2%、「思考・判断・表現」の区分で 2.1%上回っている。「解答」の分類では、「選択」の区分で 1.6%、「短答」の区分で 3.1%、「記述」の区分で 7.0%上回っている。すべての分類、区分において大阪市平均を上回った。

<数学>

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は 67.1 点で 8.6 点上回っていた。

「数と式」の領域では、得点率が 65.8 ポイント（府平均+7.2 ポイント）となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考えられる。また、「関数」の領域で得点率が 66.3 ポイント（府平均+9.1 ポイント）、「図形」の領域で得点率が 72.2 ポイント（府平均+11.6 ポイント）で、すべての領域において府平均を上回った。特に「図形」の領域において、「与えられた条件で、直線上にない点を通る垂線の作図」については府平均+17.3 ポイント、「回転移動して、図形にぴったり重なるには何度回転すればよいか求める問題」については府平均+16.4 ポイントであったことから、「図形」の領域について力をつけていると考えられる。

<理科>

本年度の中学生チャレンジ plus において、理科の学校平均正答率は、大阪市の平均 60.7%よりも 8.2%高い、68.9%であった。正答率の人数分布を見ると、大阪市全体では 50～59%と 70～79%に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では 50～59%と 70～79%にもピークがあるが、それを上回る人数で 90～100%に最大のピークがあり、学校平均を引き上げている。

領域別に見た平均点では、「粒子」領域、「生命」領域ともに大阪市の平均を 7 %程度上回っていた。観点別に見た平均点は、2 観点とも大阪市の平均点を上回り、その中でも「知識・技能」の観点「思考・判断・表現」の観点よりやや高かった。問題形式別の平均点では、全ての形式で大阪市平均を上回っていたが、記述式の得点率がやや低かった。全体を通して、平均点は上回り、「基礎」問題では高い値であったが、大阪市の傾向と同じく「活用」問題がやや低かった。

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて、大阪府の平均が 63.5 点であったのに対し、本校は 71.6 点であり、大阪府平均より 8.1 ポイントと大きく上回る、という結果となった。

「聞くこと」の領域においては、大阪府平均を 1.9 ポイント上回ることとなった。C-NET との授業や定期テストにおけるリスニングテストだけでなく、授業での小テストにおいてもリスニング問題に取り組むことで聞き取りの力が定着し、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、3.7 ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を読み、内容理解の問題にその都度取り組むことを授業に取り入れていることで、文章を読み取る力がしっかりとついてきているという結果に結びついた。

「書くこと」の領域においては、2.5 ポイント上回った。単元ごとに工夫を凝らした単語テストを実施し、生徒の書く英文を C-NET を含む複数教員で添削することで基本的な「書く力」の定着を図ることができていると考えられる。

また、評価の観点においては「知識・技能」の観点において 4 ポイント、「思考・判断・表現」の観点においては 4.1 ポイント大阪府平均を上回っており、どちらの能力もまんべんなく身につけていると考えられる。

【今後に向けて】

<国語>

すべての領域で大阪府平均を上回ることはできているが、「情報の扱い方に関する事項」については、0.4 ポイント上回っているだけである。文章に含まれている情報を取り出し、正確に理解する力がまだまだ弱い。目的に応じて情報を整理することは、説明する力の土台にあたる重要な段階である。それが、「話すこと・聞くこと」についても 1.1 ポイントの上回りではないことにつながっていると思われる。自分の持つ情報を整理して、その関係をわかりやすく明確にすることが、話や文章で適切に表現する力となるため、アクティブラーニングや KJ 法などの参加型学習を取り入れていきたい。

<社会>

すべての項目において、大阪市の平均正答率を上回ったことは成果があった。また、カテゴリー別正答率において、すべての分類において目標値を上回ることができた。生徒たちがあらか

る分類において、一定の理解ができていると考えられる。正答率度数分布では、0%～10%代が0である。これは、生徒たちがどの設問 に対しても真剣に考え、取り組んでいることがうかがえる。また、この正答率度数分布はほぼ正規分布を示しており、今後は、中間層から上位層を増やすよう授業の工夫を行っていく。全体的に正確にグラフや表を読み取る能力に加え、文章で表現する力を伸ばす。また、授業で積極的に発表する機会を設けること・考えたことを文章化することで 表現する力を伸ばすことを充分行っていく必要がある。そうして、今後は全体的に学力向上のための工夫を重ねていく。

<数学>

アンケート結果から「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が85.1%であり、府平均を1.9ポイント上回った。しかし、「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある」の項目については、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合については76.9%であり、府平均を7.2ポイント下回った。この回答結果から、話し合いの場で自分の考えを深めたり、広げたりはできているが、自ら伝える場面は少ないと考えている。

チャレンジテストの結果から、生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容は身につけている。しかし、記述式の問題については、大阪府平均を7.5ポイント上回っているものの、本校の得点率は42.5%と低い結果であった。また、思考・判断・表現の観点の問題について、本校の得点率は41.6%（府平均+9.5ポイント）であった。

アンケートとチャレンジテストの結果から判断できる課題について、言語活動を取り入れた授業展開で、思考力・判断力・表現力の育成に努める。

<理科>

本校の平均点が大阪市の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着がはかれていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、ワークシートによる授業や、振り返りシートなどによる授業の定着度の生徒自らの確認、小单元ごとのプリントによる演習を続けてきた成果と考えられ、今後も続ける予定である。

また、記述式の得点率が選択式や短答式よりもやや低かったことから、今後、自然現象を論理的に説明できるよう、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、発表したりする機会を多く設けていく。本年度は十分行えなかったが、実験・観察においても、生徒の興味関心が高まるような演示実験の工夫や、生徒自らが自分の予想をもとに実験や観察の計画を立て、レポートの作成、結果の予想、結果の考察が行えるよう時間の確保と工夫を行っていく。

得点の人数分布において下のピークとなった50～59%の範囲に至らなかった生徒は、理科に対しての苦手意識を持っていることが予想され、興味関心をもって学習に取り組めるような授業の工夫をすると共に、より基礎基本が定着するよう、教材を工夫し、確認テストや振り返り等で生徒が小单元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく必要があると考える。

<英語>

大阪府平均を8.1ポイントと大きく上回るという結果であったが、さらに実力をつけていくために今以上に集中して授業に臨み、基礎力をつけるために繰り返し学習ができるよう、今後の授

業展開を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストや短い英作文など授業中に実施できるものだけでなく、過去形を導入したので、英語での日記作成や自由英作文などに挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。また、英文作成に向けて、単語や熟語の定着から始め、自分の考えを英語で表現する力をつけていく指導を行う。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や定期テストでのリスニングだけではなく、授業におけるリスニングテストやC-NETとの授業を通して、聞く力をつける活動に取り組む。その中で、「聞く」だけではなく英語を使って会話をすることで、「話す」という意識も高めていく。

今年度は、全体として意欲的に授業に取り組む姿勢が見受けられたが、ある分野において苦手意識を持っている生徒も一定数存在する。その生徒達も、興味を持って取り組めるように授業を工夫していく。さらに、英語で発表する機会を増やし、自分の考えを表現できる能力を身につけていき、少人数授業なども活用し、生徒の学力向上に努めていく。

令和3年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から 大阪市英語力調査（GTEC）

【成果と課題】＜3年生＞

本年度の大阪市英語力調査（GTEC）において、東中学校の平均スコア合計は 529.3 点であった。大阪市の平均スコア合計は 442.1 点であり、87.1 ポイント上回る結果となった。

4 技能についてそれぞれのスコアを見ると、以下の通りである。

「読むこと（リーディング）」の区分で 22.9 ポイント、「聞くこと（リスニング）」の区分で 20.2 ポイント、「書くこと（ライティング）」の区分では 25.8 ポイント、「話すこと（スピーキング）」の区分で 18 ポイントと、すべての区分において大阪市平均を上回った。

「読むこと（リーディング）」の区分においては、音読の際に内容理解の質問を行うことや指示語の確認をすることで、内容把握の力を伸ばしていることが得点につながっていると考えられる。また、教科書内の Retell の活動で、内容を説明する英文の作成に取り組んだことも成果につながっていると考えられる。しかし、長い文章や、表やグラフの読み取りなど、情報が多くなるにつれて間違いが増えてくることも見えてきた。

「聞くこと（リスニング）」の区分では、日頃の授業での C-NET とのやりとり、単元ごとに行うリスニングテスト、定期テストや実力テストでのリスニング問題でその力を試す機会を設けていることが得点の要因であると考えられる。

「書くこと（ライティング）」の区分においては、空欄の生徒がほとんどいなかったことが高得点の一因であると考えられる。また、チャレンジテストのときと同じく、授業以外でも自由英作文を練習問題や単元テストに組み込み、英文を書くことに慣れさせたことが、英語が苦手だと感じている生徒の前向きに書こうとする姿勢につながった。

「話すこと（スピーキング）」の区分での得点率は、他の区分に比べてやや低い。現在、教室内でのスピーキング活動などが制限されている状況で、以前のようにペアやグループでの活動が実施できていないことが一因であると考えられる。しかし、指示や質問に答える際は、補足するようにしているので、英語を話すことへの不安感は少ないと考えられる。

【今後に向けて】＜3年生＞

「読むこと」の区分では、教科書本文だけでなく、さらにそれ以外の長文等も授業で用いて読解力を養う。また、読むだけではなく、そのことをまとめたり発表したりする時間を確保し、内容理解を深めるようにする。

「聞くこと」の区分では、引き続き、ネイティブスピーカーの流暢な英語を聞くことやリスニングテストを通して、リスニング力を鍛えていく。

「書くこと」の区分では、今までと同じように英作文に取り組ませる。また、正確に書く力を養うと共に、長い文章や自由英作にも対応できるようにする。

「話すこと」の区分では、授業での英語のやり取りを増やし、ペアやグループでの活動を精選しながら、実際に英語を使う活動を実施していく。

また、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し、個に対する学習支援を行っていく。

令和3年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

大阪市立東	中学校
-------	-----

生徒数	177
-----	-----

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	28.86	23.92	42.29	52.99		68.24	7.98	200.41	20.07	39.70
大阪市	28.90	26.27	42.12	51.88	416.03	78.32	8.08	195.40	20.03	40.71
全国	28.80	25.99	43.67	51.19	406.38	79.88	8.01	196.36	20.31	41.18
女子	23.33	19.20	43.10	48.05		53.55	8.70	168.88	13.43	48.34
大阪市	23.42	22.44	44.71	46.94	306.26	53.61	9.01	167.76	12.62	48.06
全国	23.43	22.32	46.20	46.25	297.62	54.24	8.88	168.15	12.72	48.56

結果の概要

今年度の男子は、大阪市平均に対して長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げの5項目で上回った。一方、下回った3項目のうち20mシャトルランが大阪市平均に対して-10.08回となり、それが原因で体力合計点も大阪市平均に対して-1.01点となった。

女子は、大阪市平均に対して反復横とび・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げの4項目で上回った。一方、下回った4項目のうち、最も大阪市平均と差があったのが上体起こしで、-3.24回であった。体力合計点は大阪市平均に対して+0.28点となった。

「運動やスポーツをすることは好きですか」の問いに、肯定的に答える割合が全国(大阪市)平均に対して男子-4.9%(-3.6%)となり、女子+1.1%(+5.8%)となった。

「1週間の総運動時間」は、全国(大阪市)平均に対して男子+13.7分(+50.3分)となり、女子-86.2分(-29.7分)となった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力テスト、体育大会、マラソン大会、球技大会、昼休みのボール貸し出しなど、体育の授業以外でも運動に興味関心を持ち、運動能力向上に向けた取組を進めることができた。マラソン大会については、新型コロナ感染予防の観点から中止としたが、体育授業の持久走においてクラス対抗で競い、賞状を発行することでマラソン大会と同等の取組を実施し成果を得ることができた。また、体力テストや実技種目の1000m、1500m、時間走などの記録を即時に集計し、そのベスト20の記録を掲示することで授業に対して意欲的に取り組ませることができた。このように自己の記録との比較を通して課題を見つけさせることで、授業に対して、生徒たちが主体的に、そして意欲的に取り組むことができる環境づくりを積極的に実施してきた。また、体育大会では生徒たちの代表である体育大会実行委員会を組織し、準備や練習などを主体的に取り組ませることで体育的行事を通して達成感の醸成を図ることができたことは、運動やスポーツに興味関心を持つ生徒の増加に良い波及効果となった。また、日常の授業ではプロジェクターを用いて運動技能の細かな説明を行い、さらにワークシートやタブレットを用いた協同学習を積極的に取り入れ、運動技能の習得をめざした。また、授業開始10分間で準備体操、補強運動を継続的に実施した。

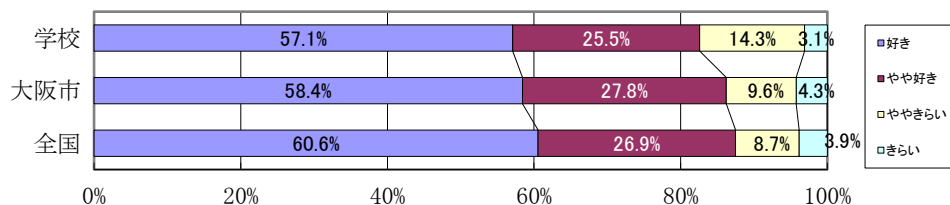
今後は既存の取組を軸として、今回の調査で明らかになった課題の克服をめざすために体づくり運動を含めた授業内容の改善を図るとともに、学校教育全体を通して体育的活動を視野に入れた体力向上の取組を推進していきたい。また、学校ホームページ等を活用し、取組の様子や授業内容についても随時発信していきたいと考えている。

運動やスポーツについて（男子）

質問番号	質問事項
1	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。
2	あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか。
3	中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。
4	学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。

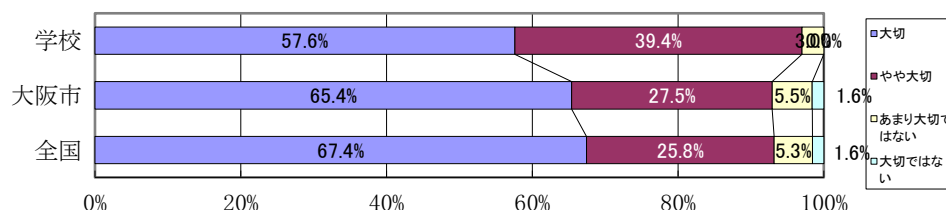
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。



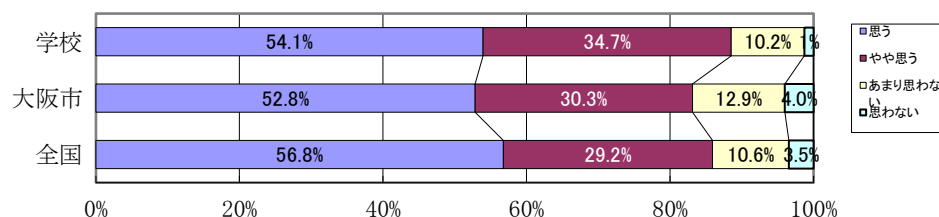
2

あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか。



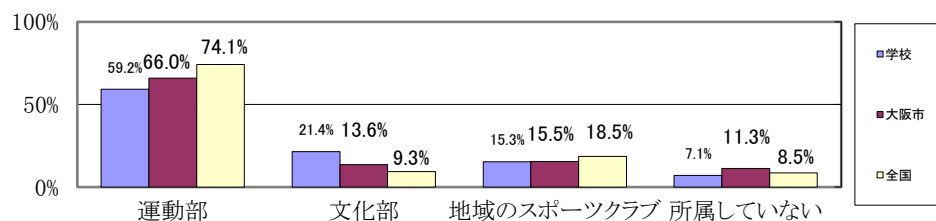
3

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



4

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。



成果と課題

「運動やスポーツをすることは好きですか」については、「好き、やや好き」と肯定的な回答をした生徒が82.6%と低値を示し、大阪市平均・全国平均をともに下回った。「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか」については、肯定的な回答が大阪市平均・全国平均をともに上回った。

「中学校を卒業した後、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいですか」について、肯定的に回答をした生徒が全国平均より2.8ポイント、大阪市平均との比較では5.7ポイント多い結果となっている。また、運動部の所属が少なく、文化部の所属が多いことから、運動を通じて「楽しさ」を理解させながら、興味関心を高めるような指導方法の検討が必要であると考えられる。

今後の取組

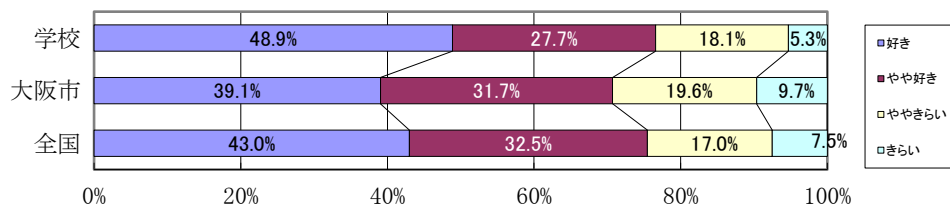
上記の結果であきらかになった点を自己の記録の向上や自己及び仲間の課題を解決し達成感を持たせ、自信や楽しさを味わうことができるような授業の工夫・改善に努めたい。また、各運動のワークシートやICTを活用し協同学習による授業展開を進めることで生徒間の言語活動を活性化させ、運動やスポーツに対する興味関心を高め、「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力」の育成につなげていきたい。

運動やスポーツについて（女子）

質問番号	質問事項
1	運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。
2	あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか。
3	中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。
4	学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。

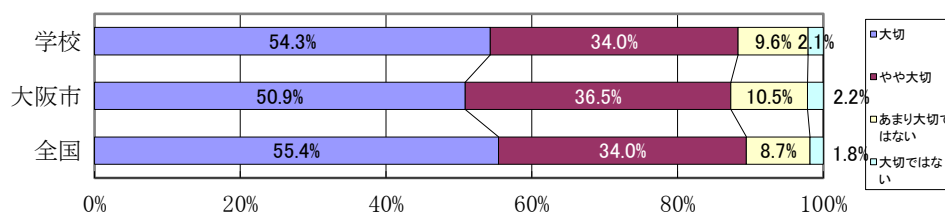
1

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。



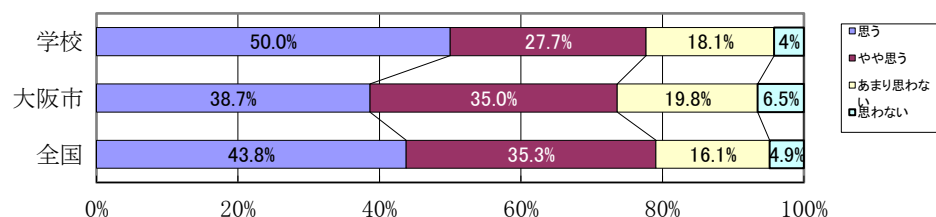
2

あなたにとって運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切ですか。



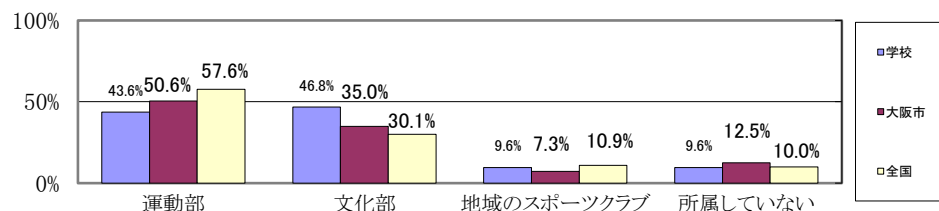
3

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



4

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。



成果と課題

「運動やスポーツをすることは好きですか」については、「好き、やや好き」と肯定的な回答をした生徒が76.6%と高値を示し、大阪市平均・全国平均をともに上回った。「あなたにとって運動やスポーツは大切ですか」についても、肯定的な回答が大阪市平均を上回り、全国平均を下回った。

「中学校を卒業した後、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいですか」について、肯定的に回答した生徒が全国平均より1.4ポイント低く、大阪市平均との比較では4.0ポイント多い結果となっている。また、運動部の所属が少なく、文化部の所属が多いことから、運動を通じて「楽しさ」を理解させながら、興味関心を高めるような指導方法の検討が必要であると考えられる。

今後の取組

上記の結果であきらかになった点を自己の記録の向上や自己及び仲間の課題を解決し達成感を持たせ、自信や楽しさを味わうことができるような授業の工夫・改善に努めたい。また、各運動のワークシートやICTを活用し協同学習による授業展開を進めることで生徒間の言語活動を活性化させ、運動やスポーツに対する興味関心を高め、「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力」の育成につなげていきたい。

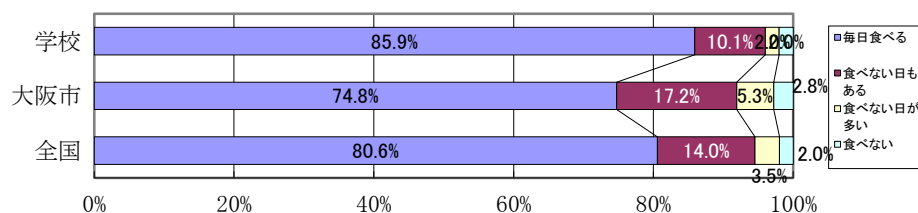
ふだんの生活について（男子）

質問
番号

質問事項

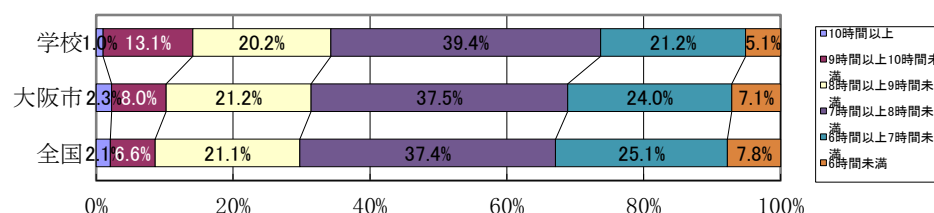
6

朝食は毎日食べますか。
(学校が休みの日も含む)



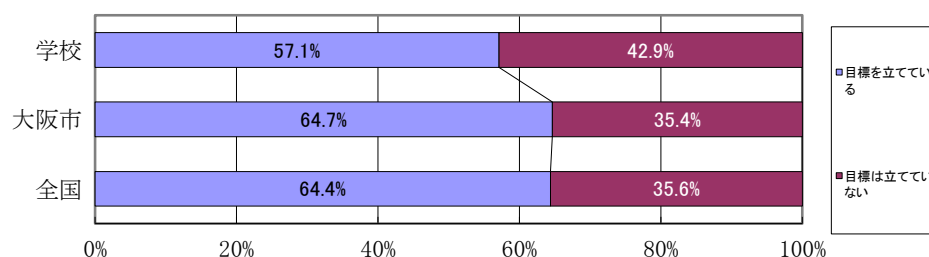
7

毎日どのくらい寝ていますか。



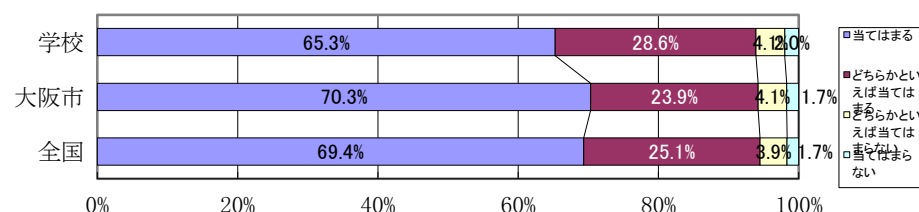
14

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか



16

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある



成果と課題

「朝食は毎日食べますか」については、毎日食べるが85.9%と高く、全国・大阪市平均を上回っている。「毎日どのくらい寝ていますか」については、8時間以上の睡眠が、全国・大阪市平均を上回る結果となった。また、「体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか」については、目標を立てている項目が全国・大阪市平均より低値であり、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」については、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」に回答した割合は93.9%となり、全国・大阪市平均より下回った。

今後の取組

食事・運動・睡眠といった健康の基盤をよりよくするため、保健室とも連携を図りながら、保護者へのはたらきかけをしていきたい。また、食事・運動・睡眠と健康との密接な関わりや、運動能力や体力の向上と基本的な生活習慣の関わりについて、保健の授業を通して取り組み、考えさせていきたい。体力テスト前などに目標設定をして、意欲の向上を図りたい。

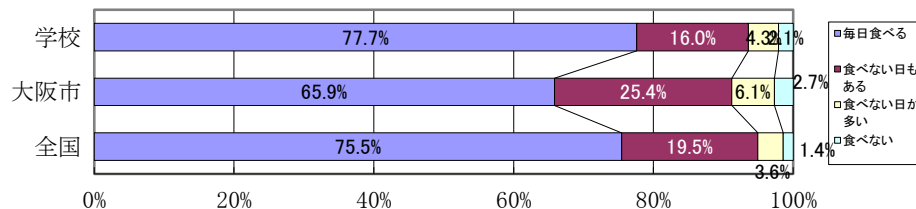
ふだんの生活について（女子）

質問
番号

質問事項

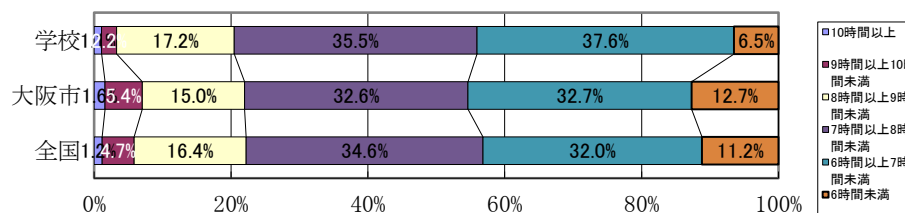
6

朝食は毎日食べますか。
(学校が休みの日も含む)



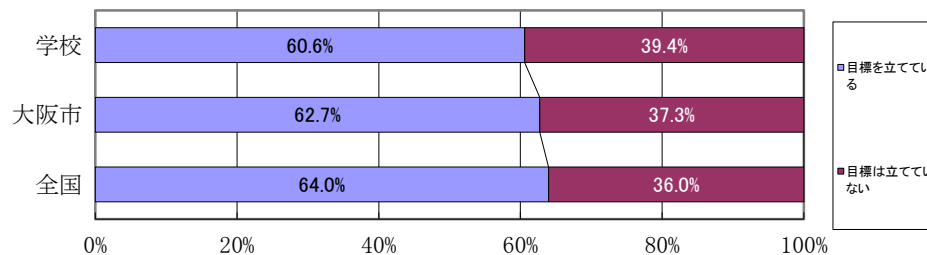
7

毎日どのくらい寝ていますか。



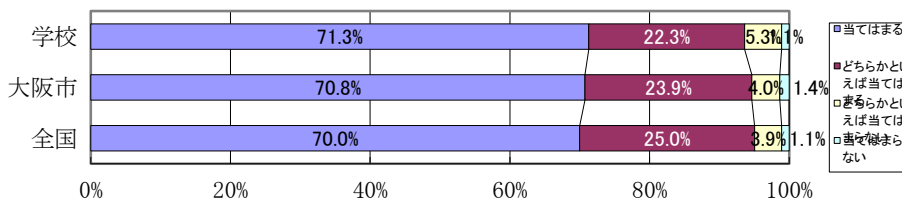
14

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか



16

ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある



成果と課題

「朝食は毎日食べますか」については、毎日食べるが93.7%となり全国平均を下回り、大阪市平均を上回った。「毎日どのくらい寝ていますか」については、8時間以上の睡眠が、全国・大阪市平均を下回る結果となった。また、「体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか」については、目標を立てている項目が全国・大阪市平均より低値であり、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」については、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」に回答した割合は93.6%となり、全国・大阪市平均より下回った。

今後の取組

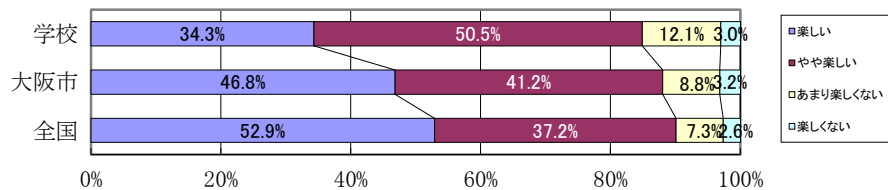
食事・運動・睡眠といった健康の基盤をよりよくするため、保健室とも連携を図りながら、保護者へのはたらきかけをしていきたい。また、食事・運動・睡眠と健康との密接な関わりや、運動能力や体力の向上と基本的な生活習慣の関わりについて、保健の授業を通して取り組み、考えさせていきたい。体力テスト前などに目標設定をして、意欲の向上を図りたい。

保健体育の授業について（男子）

質問 番号 質問事項

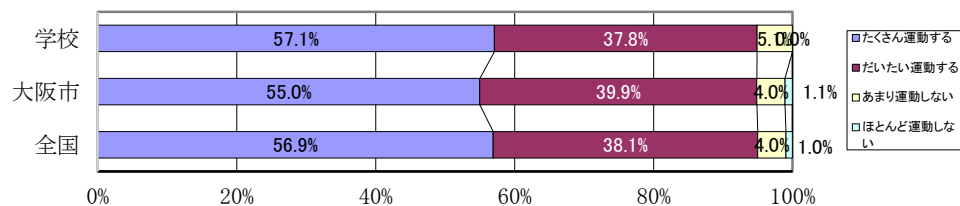
10

保健体育の授業は楽しいですか。



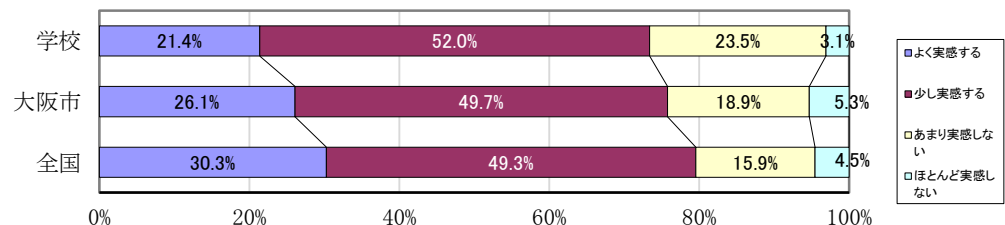
11

保健体育の授業では、たくさん運動しますか。（保健授業を除く）



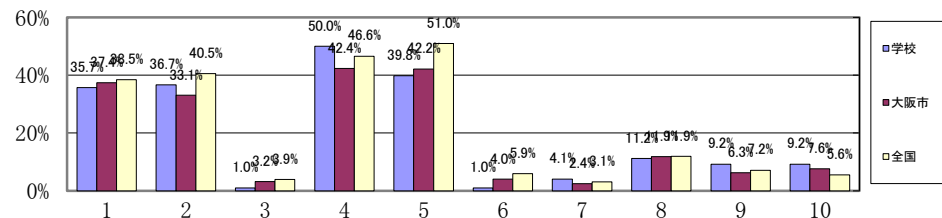
12

保健体育の授業では、自分の動きの質が向上している（例えば、ボール投げであれば、正しいフォームでボールが投げられるようになった）ことを実感することがありますか。（保健授業を除く）



13

これまでの保健体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由は何のようなものがありましたか。当てはまるもの全て選んでください。



- 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった
- 授業中に自分で工夫して練習した
- 自分に合った場やルールが用意された
- 先生や友達のまねをしてみた
- 友達に教えてもらった
- 授業中に自分の動きを撮影したビデオを見た
- 授業外の時間に先生に教えてもらった
- 授業外の時間に自分で練習した
- 授業外の時間に自分で本を読んだりビデオを見たりした
- できるようになったことがない

成果と課題

「保健体育の授業は楽しい、やや楽しい」と回答した割合は全国平均と比較して低値である。「保健体育の授業では、たくさん運動しますか」については、肯定的な回答が全国平均より0.1%低く、大阪市平均と同値であった。「保健体育の授業では、自分の動きの質が向上していることを実感することがありますか」については、肯定的な回答が全国・大阪市平均より下回る結果となった。「保健体育の授業でできなかったことができるようになったきっかけの理由」として、「自分に合った場やルールが用意された」の回答が全国・大阪市平均より少なく、「できるようになったことがない」の回答が全国・大阪市平均より多いことから、個に応じた指導や場の設定など、授業内容の工夫・改善を図ってきたい。

今後の取組

できなかったことが「できるようになる」楽しさを感じ、その種目の特性や魅力に触れる喜びを味わうことは運動やスポーツの実施への好循環へとつながっていくと考えられる。「技や動きができるようになる」、「たくさん動く」、「仲間と協力して課題を解決することがある」、「練習やゲームで自ら工夫できる」など、連帯感や達成感を与えることができる授業、また、自己の将来に役立つ手立てを学習していると実感できるような授業を進めていきたい。

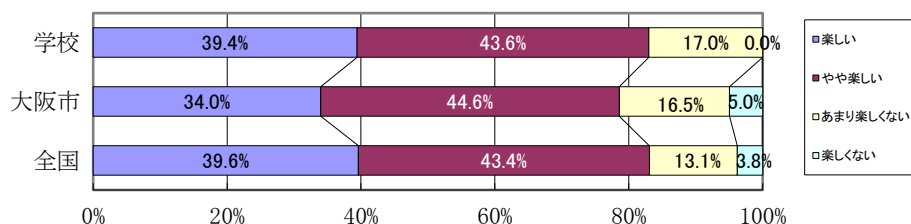
保健体育の授業について（女子）

質問
番号

質問事項

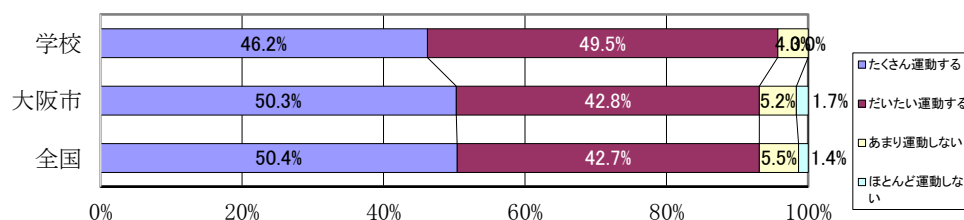
10

保健体育の授業は楽しい
ですか。



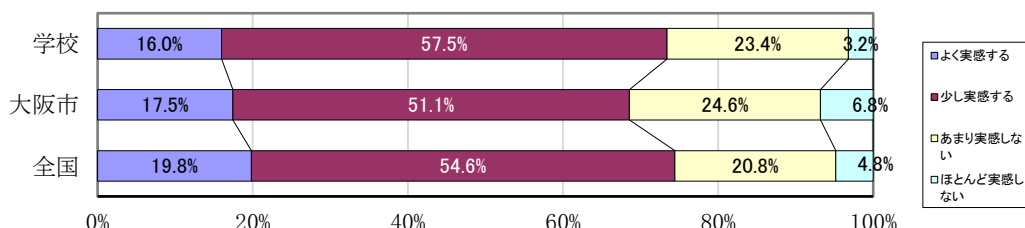
11

保健体育の授業では、たく
さん運動しますか。（保健
授業を除く）



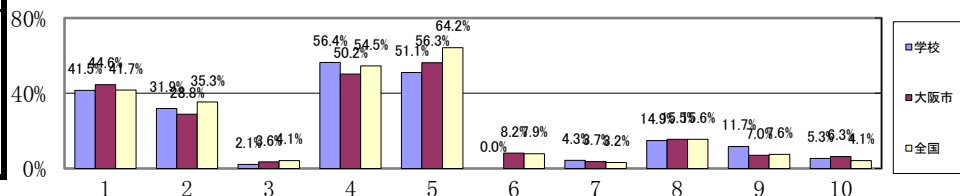
12

保健体育の授業では、自分の動き
の質が向上している（例えば、ボー
ル投げであれば、正しいフォーム
でボールが投げられるようになった）
ことを実感することがあります
か。（保健授業を除く）



13

これまでの保健体育の授業で
「できなかったことができるよ
うになった」きっかけ、理由はど
うようなものがありましたか。当
てはまるもの全てを選んでくださ
い。



- 1 授業中に先生に個別にコツやポイントを教えてもらった 2 授業中に自分で工夫して練習した
3 自分に合った場やルールが用意された 4 先生や友達のまねをしてみた
5 友達に教えてもらった 6 授業中に自分の動きを撮影したビデオを見た
7 授業外の時間に先生に教えてもらった 8 授業外の時間に自分で練習した
9 授業外の時間に自分で本を読んだりビデオを見たりした 10 できるようになったことがない

成果と課題

「保健体育の授業は楽しい、やや楽しい」と回答した割合は全国平均と比較して同値であった。「保健体育の授業では、たくさん運動しますか」については、肯定的な回答が全国・大阪市平均より高値であった。「保健体育の授業では、自分の動きの質が向上していることを実感することがありますか」については、肯定的な回答が大阪市平均より上回り、全国平均より下回る結果となった。「保健体育の授業でできなかったことができるようになったきっかけの理由」として、「自分に合った場やルールが用意された」の回答が全国・大阪市平均より少なく、個に応じた指導や場の設定など、授業内容の工夫・改善を図っていきたい。

今後の取組

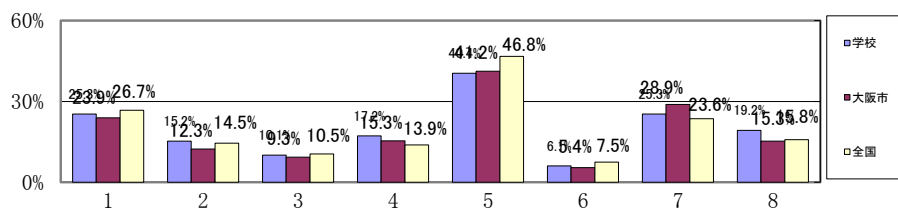
できなかったことが「できるようになる」楽しさを感じ、その種目の特性や魅力に触れる喜びを味わうことは運動やスポーツの実施への好循環へとつながっていくと考えられる。「技や動きができるようになる」、「たくさん動く」、「仲間と協力して課題を解決することがある」、「練習やゲームで自ら工夫できる」など、連帯感や達成感を与えることができる授業、また、自己の将来に役立つ手立てを学習していると実感できるような授業を進めていきたい。

その他（男子）

質問 番号 質問事項

15

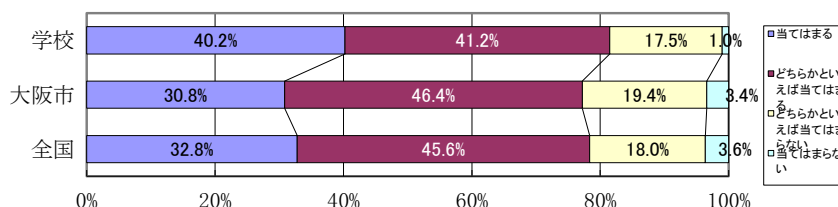
オリンピック・パラリンピックを日本で行うことになりましたが、あなたの今の気持ちに当てはまるもの全て選んでください。



- 1 運動やスポーツに関心が高まってきた 2 オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい
3 オリンピック・パラリンピックの内容・歴史を知りたい 4 自分も選手として出場してみたい
5 試合を見に行ってみたい 6 大会開催の手伝いやボランティアをしてみたい 7 わからない
8 その他

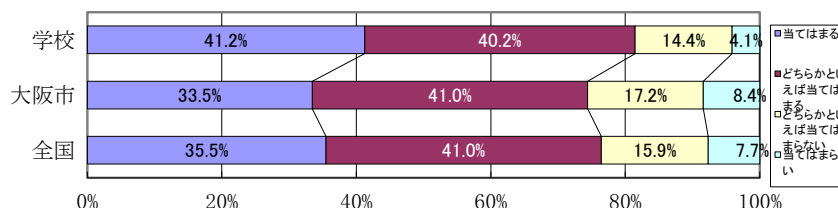
17

難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している



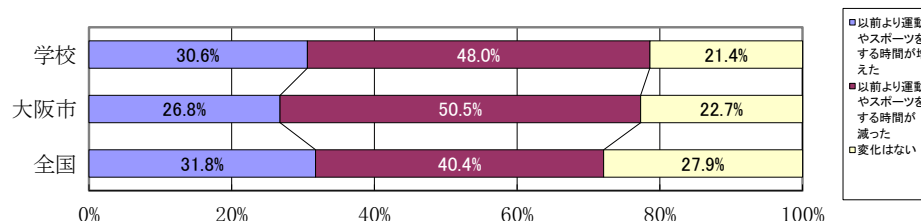
18

自分には、よいところがあると思う



「運動やスポーツをす

新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在を比較して、あなたの運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの取組はどのように変化しましたか



成果と課題

「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」について、「競技種目を自分も行ってみたい」「選手として出場してみたい」という回答が全国・大阪市平均より高値を示した。「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」について、肯定的な回答をしている生徒の割合が全国・大阪市平均より高値を示した。また、「自分にはよいところがあると思う」について、肯定的な回答をしている生徒の割合が全国・大阪市平均より高値を示し、自己肯定感の高さがみられた。

今後の取組

オリンピック・パラリンピックの日本開催について、「競技種目を自分も行ってみたい」「選手として出場してみたい」という回答が高値になるなど関心の高さを感じる。運動やスポーツに慣れ親しむ姿勢は育まれていると感じる。体育理論や各種目を実施する際にも、オリンピック・パラリンピックの内容を盛り込むことで運動やスポーツへの興味関心を高め、体育授業や部活動等の体育的活動に積極的に臨むことのできる生徒の育成を図りたい。また、体育大会・マラソン大会・球技大会といった本校の体育的行事において、体育大会実行委員会などのように仲間とともに行事を成功に導くための活動を通じて、難しい事にも積極的に挑戦し多くの失敗から大きな成功を導き出す経験を多くさせることで、課題に屈せず挑戦し続ける心を育んでいきたい。

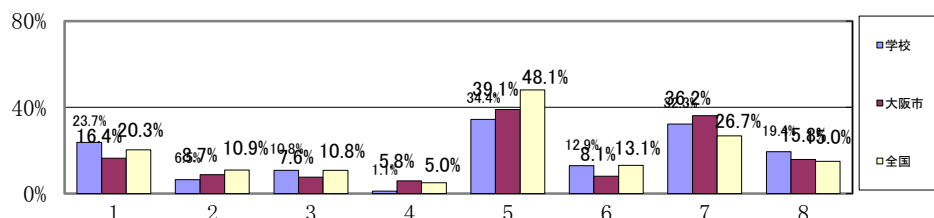
その他（女子）

質問
番号

質問事項

15

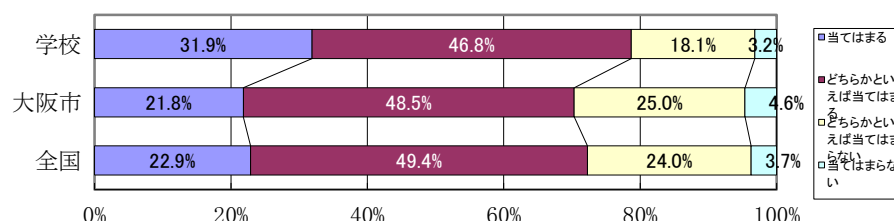
オリンピック・パラリンピックを日本で行うことになりましたが、あなたの今の気持ちに当てはまるもの全て選んでください。



- 1 運動やスポーツに関心が高まってきた 2 オリンピック・パラリンピックの種目を自分も行ってみたい
3 オリンピック・パラリンピックの内容・歴史を知りたい 4 自分も選手として出場してみたい
5 試合を見に行きたい 6 大会開催の手伝いやボランティアをしてみたい 7 わからない
8 その他

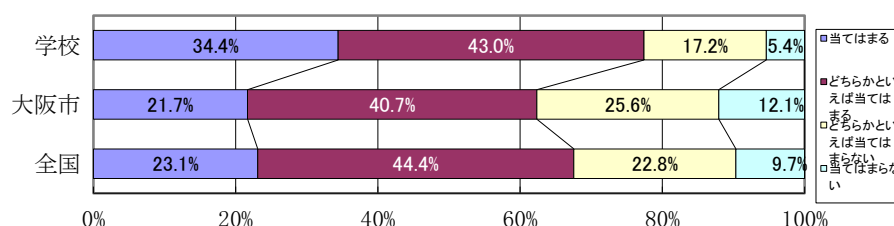
17

難しいことでも、失敗を恐れ
ないで挑戦している



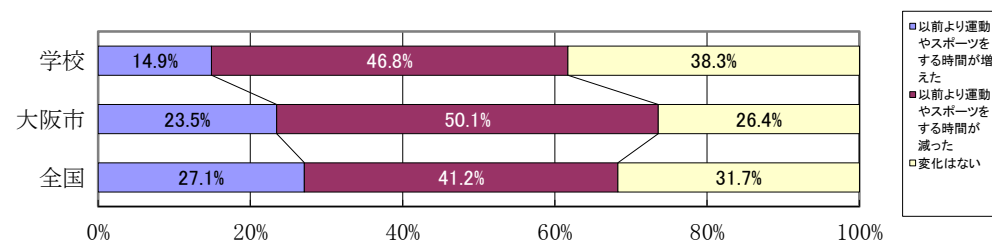
18

自分には、よいところがある
と思う



「運動やスポーツをす

新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在を比較して、あなたの運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツへの取組はどのように変化しましたか



成果と課題

「オリンピック・パラリンピックへの気持ち」について、「運動に関心が高まってきた」という回答が全国・大阪市平均より高値を示した。「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している。」について、肯定的な回答をしている生徒の割合が全国・大阪市平均より高値を示した。また、「自分にはよいところがあると思う」について、肯定的な回答をしている生徒の割合が全国・大阪市平均より高値を示し、自己肯定感の高さがみられた。

今後の取組

オリンピック・パラリンピックの日本開催について、「運動に関心が高まってきた」という回答が高値になるなど関心の高さを感じる。運動やスポーツに慣れ親しむ姿勢は育まれていると感じる。体育理論や各種目を実施する際にも、オリンピック・パラリンピックの内容を盛り込むことで運動やスポーツへの興味関心を高め、体育授業や部活動等の体育的活動に積極的に臨むことのできる生徒の育成を図りたい。また、体育大会・マラソン大会・球技大会といった本校の体育的行事において、体育大会実行委員会などにより仲間とともに行事を成功に導くための活動を通じて、難しい事にも積極的に挑戦し多くの失敗から大きな成功を導き出す経験を多くさせることで、課題に屈せず挑戦し続ける心を育てていきたい。